

令和8年度 シラバス

愛媛県宇和島東高等学校津島分校

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	2	学年	3年	類型	ビジネスコース
教科書	東京書籍 政治・経済			副教材	愛媛県高等学校教育研究会公民部門編 2026 政治・経済ワークブック				

学期	月	単元名	指導項目、内容	重視する評価の観点			学習のねらい・学習の目標・評価の観点
				知	思	主	
1 学期	4	第1編 現代日本の政治と経済 第1章 現代日本の政治	1節 民主政治の基本原則 1民主政治の成立 2法と民主政治 3基本的人権の確立		○	◎	学習のねらい 現代日本の政治・経済に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論について学習します。 国際政治・経済に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論について学習します。 国際社会の諸課題を探究する活動を行います。情報を収集し、読み取り、整理したうえで自分の主張を考察します。
			4現代の民主政治 5世界のおもな政治体制		◎	○	
			2節 日本国憲法の基本原則 1日本国憲法の制定と基本原則 2基本的人権の保障 3平和主義	◎		○	
	5		中間考査	◎	◎		
			3節 日本の政治機構 1国会と立法 2内閣と行政 3裁判所と司法 4地方自治	◎		○	
		第2章 現代日本の経済	4節 現代政治の特質と課題 1戦後政治と政党 2選挙と政治意識 3世論と政治参加	○	◎		
			1節 現代の資本主義経済 1経済活動の意義 2資本主義経済の発展と変容	○		◎	
	6		2節 現代経済のしくみ 1経済主体と経済の循環 2生産のしくみと企業 3市場経済の機能と限界 4国民所得と経済成長	◎		○	
			期末考査	◎	◎		
			5金融のしくみと機能	◎		○	
	7		6財政のしくみと機能	○	◎		
2 学期	9		3節 日本経済の発展と現状 1戦後日本経済の発展 2日本経済の現状	◎		○	評価の観点 知識・技能 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に学習している。
			4節 福祉社会と日本経済の課題 1公害と環境保全 2農業・食糧問題 3中小企業の現状と課題	○		◎	
			4情報化の進展と社会の変化 5消費者問題 6雇用と労働問題 7社会保障と福祉		○	◎	
		第3章 現代日本の諸課題	1少子高齢社会における社会保障 2地域社会の活性化		◎	○	
	10		3多様な働き方・生き方の実現 4中小企業の意義と課題	◎		○	
			中間考査	◎	◎		
			5日本の財政の健全化 6持続可能な食糧・農業の実現 7防災と安全・安心な社会の実現	○	◎		
		第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治	1節 国際政治のしくみ 1国際政治の特質 2国際社会と国際法 3国際連合の役割と課題	○		◎	
	11		2節 複雑化する国際政治と日本 1戦後国際関係の展開と日本 2冷戦後の国際関係と日本	○	◎		
			3地域主義の動き 4軍縮の動向と課題	○		◎	
			5紛争・難民・テロリズム 6国際社会における日本の役割		◎	○	
		第2章 現代の国際経済	1節 国民経済と国際経済 1貿易と国際収支 2戦後国際経済体制の展開 3発展途上国の経済	○		◎	
	12		2節 世界経済の現状と課題 1グローバル化する世界経済 2地球環境問題 3資源・エネルギー問題 4人口・貧困・感染症	○	◎		思考・判断・表現 合意形成や社会参画に向け、現実社会に見られる複雑な課題について考察し、説明するとともに、身につけた判断基準を根拠に構想したり、社会の在り方などについて構想したこととの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断したり、表現したりしている。
			期末考査	◎	◎		
		第3章 国際社会の諸課題	1グローバル化にともなう社会変容		◎	○	
			2地球環境と資源・エネルギー問題	○	◎		
3 学期	1						主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現のために、国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うなど、自らの学習を調整しようとしている。
			3国際的な経済格差の是正 4イノベーションの促進と成長市場	◎		○	
			5民族問題と紛争の解決 6持続可能な社会の実現	○	◎		
			学年末考査	◎	◎		
	2		家庭学習				
			〃				
			〃				
			〃				
	3						

※評価の観点 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 主：主体的に学習に取り組む態度

◆学習方法のポイント

- 「政治・経済」「公共」の学習のうに成り立つ科目ですので、学習全体を通して「公共」との関連を図ります。これらの学習を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざします。
- 日ごろからメディアで報道される時事的な課題に関心をもち、調べたり論点を見いだしたりすることに努める。
- 客観的な資料にもとづいて、諸課題を考察し、解決のあり方を模索する態度を身につけること。
- 予習・復習を必ずするようにしましょう。特に教科書をよく読むようにしましょう。
- 興味を持って、授業に取り組むようにしましょう。

【授業】

- 週に2時間の授業があります。
 - ア 現代社会をとらえる視点や枠組み、基本的な概念や理論の理解を図ります。
 - イ 一斉授業、グループ学習、発表などの学習活動を行い、物事を多面的・多角的に考察し、公正に判断する力
 - ウ 資料から適切な情報を選択し、課題を追究する活動、レポートにまとめたり発表したりする活動などを行い、方法や社会の在り方などを構想する力を身につけます。
- 課題の設定・追究、まとめの学習を行う際には、教科書の「探究のスキル」などを参考にしてください。
- 授業開始の1分前には着席をして、教科書・ノート等の授業準備をするように習慣づけてください。
- 学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とします。
- 常に「なぜ？」という問題意識を持ち、探求的な態度で取り組みましょう。

【家庭学習】

- 学習内容の振り返りを行う際には、教科書の節末にある「節のまとめ」や「節の課題に取り組もう」などを参考に→普段から、テレビ・新聞記事・インターネットなどを見て、社会情勢に興味を持つことも大切です。

【定期考査】

- 教科書・ノートを読み直し、授業内容を確認しましょう。
- 各学期の定期考査では、出題範囲における知識と技能の習得の状況、思考力・判断力・表現力を評価します

◆評価の方法、規準

評価の方法	定期考査、授業への出席状況および学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況を①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度の3つの観点から総合的に評価します。	
評価の規準	1 学 期	中間考査、期末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノート等の整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	2 学 期	中間考査、期末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノート等の整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	3 学 期	学年末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノート等の整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均